

# 第5章 社会生活, 社会参加

東洋大学社会学部社会福祉学科教授 秋元 美世

## I 近所の人たちや友達との交流

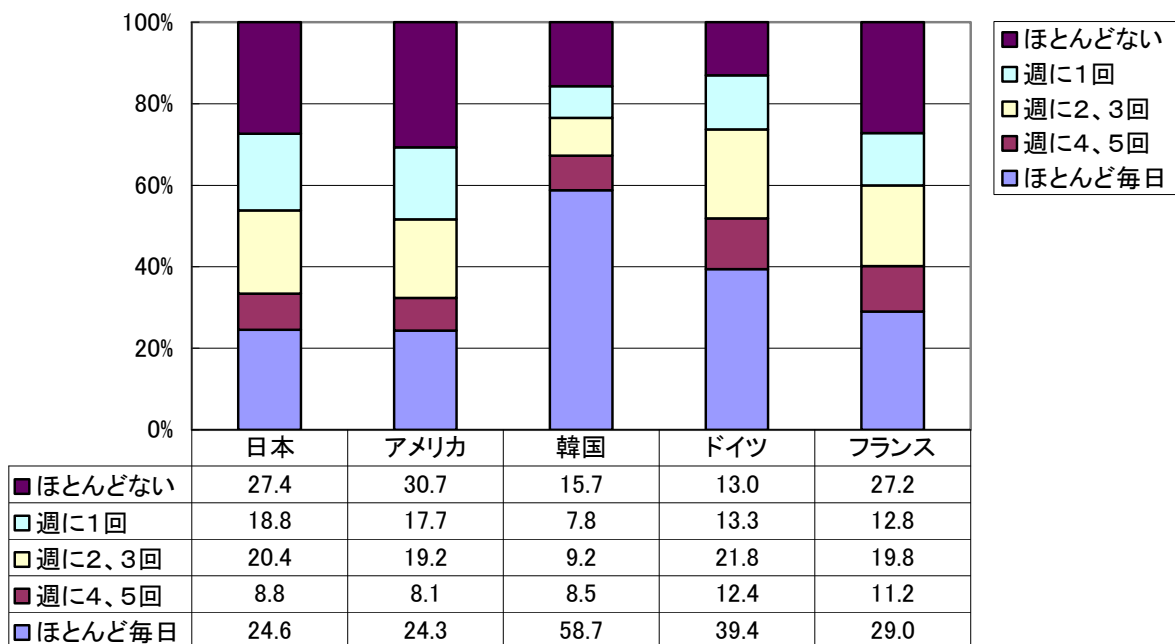
### 1 近所の人たちとの交流

(1) 近所の人たちとの交流頻度 (Q43)

「週に何回ぐらい、近所の人たちと話をするか」という質問についてみると、「ほとんど毎日」の割合が最も高いのは韓国で 58.7%となっている。次いで、ドイツ (39.4%)、フランス (29.0%)、日本 (24.6%)、アメリカ (24.3%) となっている。一方、「ほとんどない」の割合は、アメリカ (30.7%)、日本 (27.4%)、フランス (27.2%)、韓国 (15.7%)、ドイツ (13.0%)、となっている。日本では、「ほとんどない」の割合がアメリカに次いで高く、近所の人たちとの交流の少なさがうかがえる

図表 5-1 にあるように、「ほとんど毎日」と「ほとんどない」の割合が、ドイツ以外の国で共通して高いという傾向が見られる。高齢者の近隣の人々との交流が2つのタイプに分かれる傾向があることがうかがえる。

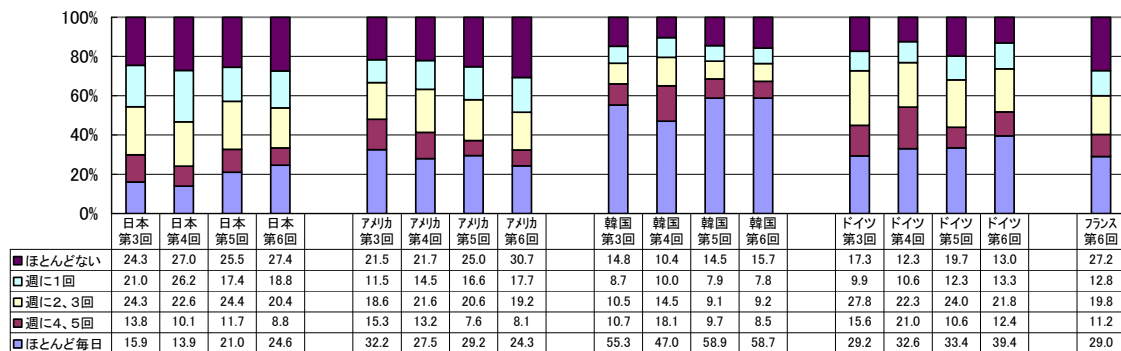
図表5-1 近所の人たちとの交流頻度



図表5-2から、日本、アメリカ、韓国、ドイツの4カ国の「ほとんど毎日」の占める割合が、他の項目との関係で何位に位置するかを第3回調査以降について見てみると、日本が「4位（3回）・4位（4回）・4位（5回）・3位（第6回）」、アメリカが「2位・3位・3位・4位」、韓国が「1位・1位・1位・1位」、ドイツが「2位・2位・2位・2位」となっている。韓国とドイツが常に高順位を維持し、また日本は、全体として低位であるものの、第6回調査で3位と順位を上げているのに対し、アメリカだけが、逆に順位を下げ続けているという傾向が見られる。

こうしてみると、近隣との交流に関しては、韓国とドイツは、一貫して高い割合を示している（特に韓国の高さが顕著である）のに対し、アメリカでは近隣との交流の低下傾向が強まっているという様子が伺える。なお、この点に関して日本は、一時期（第3調査から第4回調査）割合が低下したものの、最近2回の調査では、割合が増加してきており、基調としては増加傾向にあると言える

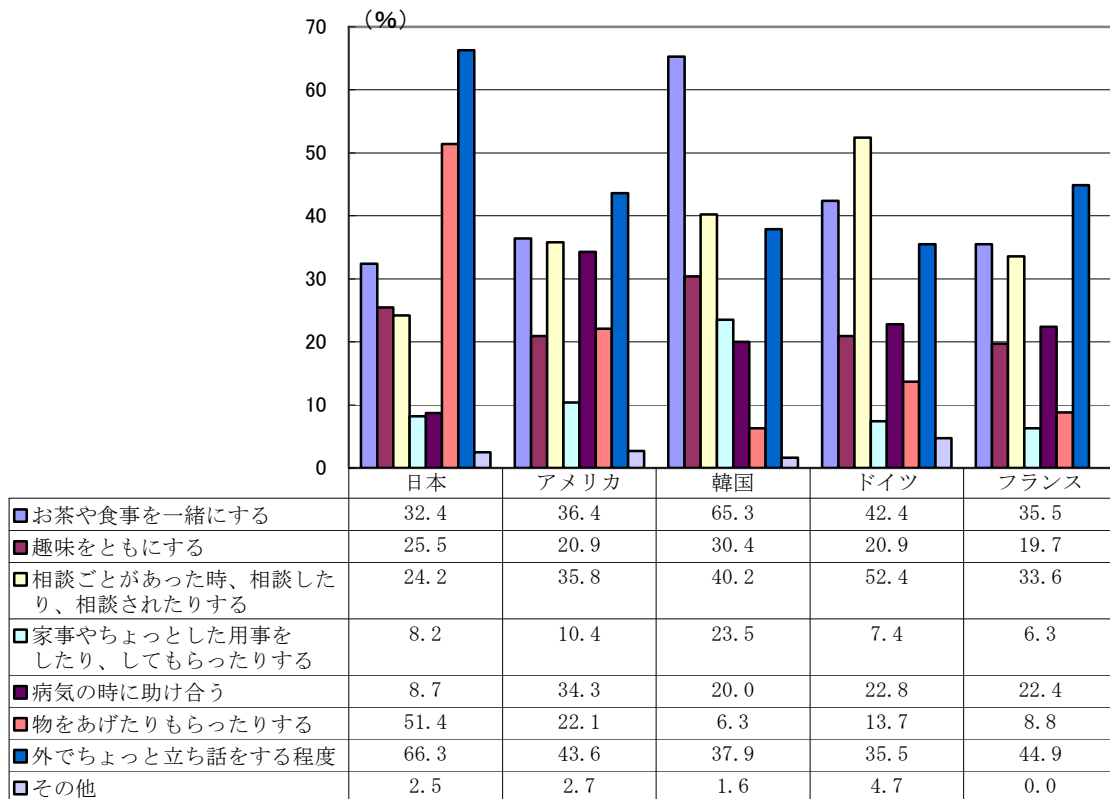
図表5-2 近所の人たちの交流頻度・時系列



(2) 近所の人たちとの付き合い方 (Q44)

図表 5-3 は、近所の人たちと交流のある高齢者に、その具体的な付き合い方について聞いたものを各国別にまとめたものである。

図表5-3 近所の人たちとのつきあい方



日本では「外でちょっと立ち話をする程度」(66.3%)「物をあげたりもらったりする」(51.4%)の割合が高く、以下、「お茶や食事を一緒にする」(32.4%)、「趣味をともにする」(25.5%)「相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする」(24.2%)、と続いている。

アメリカでは「外でちょっと立ち話をする程度」(43.6%)、「お茶や食事を一緒にする」(36.4%)、「相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする」(35.8%)、「病気の時に助け合う」(34.3%)、「物をあげたりもらったりする」(22.1%) がそれぞれ2割から4割程度あり、付き合い方の多様さが見える。

韓国では「お茶や食事を一緒にする」(65.3%)の割合が最も高く、次いで「相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする」(40.2%)、「外でちょっと立ち話をする程度」(37.9%)、「趣味をともにする」(30.4%)となっている。

ドイツでは「相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする」(52.4%)、「お茶や食事を一緒にする」(42.4%)「外でちょっと立ち話をする程度」(35.5%)などの割合が高い。

フランスでは「外でちょっと立ち話をする程度」が44.9%と圧倒的に高く、次いで「お茶や食事を一緒にする」(35.5%)、「相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする」(33.6%)となっている。

全体的に見ると、「外でちょっと立ち話をする程度」の割合が高い日本と、「お茶や食事を一緒にする」や「相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする」といった親密で相互扶助的な付き合い方がより高い割合を示している韓国とドイツのグループ、さらに「外でちょっと立ち話をする程度」と「お茶や食事を一緒にする」の双方がともに高い割合を示しているアメリカ・フランスのグループに分かれている。なお、日本の場合だけ、「物をあげたりもらったりする」の高さが突出して高い割合を示している。物のやりとりを媒介とする関係が重視されていることが伺われ興味深い。

次に、図表 5-4 は、第 3 回調査から第 6 回調査までの推移を示したものである（各国について各回 1 位から 3 位までのものにその順位を付してある）。これを見ると、まず日本と韓国の場合、これまでの調査において 1 位から 3 位までに登場する項目に変化はない。とくに、日本の場合、今回（第 6 回）1 位と 2 位の入れ替えがあったことを除いて、順位も毎回同じであった。他方、韓国の場合、2 位と 3 位の入れ替えを中心に、毎回順位の変化が見られる。他方、アメリカとドイツの場合、1 位から 3 位までに登場する項目に変化が見られる。アメリカの場合、前回 2 位だった「病気の時に助け合う」が 4 位にダウンし、逆に「外でちょっと立ち話をする程度」が 2 位から 1 位に上がってきている。ただし前回 3 位までに入らなかった、「お茶や食事を一緒にする」が 2 位に入っており、全体として、付き合い方の親密度が低下傾向にあるとまで言えるかどうかは微妙である。ドイツは、第 3 回、第 4 回において「物をあげたりもらったりする」が 3 位以内に入っていたが、5 回、6 回という直近の 2 回の調査ではそれに替わって「お茶や食事を一緒にする」が入ってきている。もっともドイツの場合、「相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする」が第 4 回以降常に 1 位を占めており、傾向が大きく変わったとまでは言えないように思われる。

図表5-4 近所の人たちとの付き合い方・時系列

	日本				アメリカ			
	第3回 (1990年)	第4回 (1995年)	第5回 (2000年)	第6回 (2005年)	第3回 (1990年)	第4回 (1995年)	第5回 (2000年)	第6回 (2005年)
お茶や食事を一緒にする	30.9③	32.3③	32③	32.4③	29.1	28.2	32.8	36.4②
趣味をともにする	26.8	24.3	25.4	25.5	22.1	18.8	18.1	20.9
相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする *	24.3	26.4	29.2	24.2	45.4②	46.2①	41.3①	35.8③
家事やちょっとした用事をしたり、してもらったりする	4.6	4.4	6.5	8.2	16.6	18.3	16.5	10.4
病気の時に助け合う	13.9	13.2	9.8	8.7	53.4①	46.2①	38.6②	34.3
物をあげたりもらったりする	61.7①	63.3①	61.2①	51.4②	41.1②	41.7③	32.0	22.1
外でちょっと立ち話をする程度	48.9②	48.7②	53.5②	66.3①	37.7	40.7	38.6②	43.6①
その他(具体的に)	2.8	2.8	2.2	2.5	16.2	8.2	10.9	2.7

	韓国				ドイツ			
	第3回 (1990年)	第4回 (1995年)	第5回 (2000年)	第6回 (2005年)	第3回 (1990年)	第4回 (1995年)	第5回 (2000年)	第6回 (2005年)
お茶や食事を一緒にする	46.9②	57.1①	62①	65.3①	35.1	32.9	42.1③	42.4②
趣味をともにする	21.8	29.8	24.4	30.4	11.8	13.5	18.5	20.9
相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする *	50.8①	49.8②	30③	40.2②	40.5③	52.7①	54.4①	52.4①
家事やちょっとした用事をしたり、してもらったりする	36.9	25.8	18.0	23.5	9.2	9.2	6.5	7.4
病気の時に助け合う	33.3	18.8	20.1	20.0	21.9	28.6	25.5	22.8
物をあげたりもらったりする	17.4	16.2	4.2	6.3	45.2②	49.4③	18.2	13.7
外でちょっと立ち話をする程度	42.8③	40.7③	48.3②	37.9③	47.6①	49.5②	52.7②	35.5③
その他(具体的に)	2.9	0.0	2.8	1.6	7.2	7.6	5.6	4.7

\*前回までは「相談事があったとき、相談をする」

## 2 親しい友人の有無 (Q45)

図表 5-5 は、家族以外に相談あるいは世話をしあう親しい友人がいるかについて聞いたものであるが、友人の性別にかかわらず「友人がいる」の割合はアメリカが 84.6%で最も高く、次いでフランスの 81.5%、ドイツの 77.8%の順となっており、日本 (70.1%) と韓国 (64.3%) のアジア 2 か国は、欧米 3 か国に比べてやや低い。

友人の性別をみると、日本と韓国では「同性の友人」(日本 50.4%、韓国 55.1%) が最も高い割合であるのに対し、ドイツ、フランスの欧州 2 か国では「同性と異性の友人がいる」(ドイツ 45.7%、フランス 55.0%) が最も高くなっている。アメリカは「同性の友人がいる」「同性と異性の友人がいる」の両者が 4 割とほぼ拮抗している。

一方、友人は「いない」の割合をみると、日本及び韓国のアジア 2 か国ではそれぞれ 29.9%、35.8% となっているのに比べて、アメリカ (15.2%)、ドイツ (22.0%)、フランス (18.4%) の欧米 3 か国では低くなっている。

こうしてみると、親しい友人の持ち方に関して、明らかに西欧の 3 か国と東アジアの 2 か国で大きな文化的な差異が認められる。

さらにこのような傾向は、図表 5-6 に見られるように、第 1 回調査以来、あまり変わっていないようである。

図表5-5 友人の有無 (%)

	日本	アメリカ	韓国	ドイツ	フランス
友人がいる	70.1	84.6	64.3	77.8	81.5
同性の友人がいる	50.4	41.8	55.1	29.3	24
異性の友人がいる	1.2	2.7	1	2.8	2.5
同性と異性の友人がいる	18.5	40.1	8.2	45.7	55
いずれもない	29.9	11.5	35.8	22	18.4

図表5-6 友人の有無・時系列 (%)

	日 本						ア メ リ カ						韓 国						ド イ ツ						フ ラ ンス					
	第1回 (1980年)	第2回 (1985年)	第3回 (1990年)	第4回 (1995年)	第5回 (2000年)	第6回 (2005年)	第1回 (1980年)	第2回 (1985年)	第3回 (1990年)	第4回 (1995年)	第5回 (2000年)	第6回 (2005年)	第1回 (1980年)	第3回 (1990年)	第4回 (1995年)	第5回 (2000年)	第6回 (2005年)	第3回 (1990年)	第4回 (1995年)	第5回 (2000年)	第6回 (2005年)	第1回 (1980年)	第6回 (2005年)							
友人がいる	68.2	66.3	70.5	69	75.2	70.1	90.6	93.3	91.7	90.1	87.1	84.6	72.5	66.4	68.7	61	64.3	85.4	88	83	77.8	78.2	81.5							
同性の友人がいる	57.3	54.1	60	57.9	56.3	50.4	32.2	24.9	27.4	31	33.2	41.8	38.9	60.2	62.5	55.3	55.1	25.7	28.6	26.5	29.3	2.8	24							
異性の友人がいる	0.9	1.4	1.5	1.6	1	1.2	1.1	1.4	1.6	2.2	2.7	2.7	30	1.1	2.4	1.8	1	0.7	0.6	1.2	2.8	14.9	2.5							
同性と異性の友人がいる	10	10.8	9	9.5	17.9	18.5	57.3	67	62.7	56.9	51.2	40.1	3.6	5.1	3.8	3.9	8.2	59	58.8	55.3	45.7	60.5	55							
いずれもない	29	33.4	28.7	30.5	24.8	29.9	8.9	6.6	7.9	9.4	11.5	15.2	27.3	33.6	31.3	39	35.8	13.8	11.9	17	22	21.4	18.4							

## II 社会活動への参加

### 1 ボランティア活動

#### (1) ボランティア活動への参加状況 (Q46)

図表5-7は、「現在、福祉や環境を改善するなどをも目的としたボランティアやその他の社会活動に参加しているか」について尋ねた結果であるが、これまでに全く参加したことがないと答えた割合は、韓国の72.5%が5か国中最も高く、次いでフランスの66.3%、日本の53.4%、ドイツの46.2%と続き、最も割合が低いのがアメリカで32.3%となっている。日本の場合、高齢者の約半数が参加していることがわかる。なお、「現在は参加していないが以前に参加していた」という場合についても同時に尋ねている。結果は、アメリカが21.5%、ドイツ20.8%、日本15.9%、フランス13.4%、韓国7.0%の順となっており、「参加したことがない」が高い割合の国ほど、逆に低い割合となっている。

具体的な活動についてみると、日本では「近隣の公園や通りなどの清掃等の美化活動」(12.8%)、「地域行事、まちづくり活動」(12.8%)、などがあげられる。

アメリカでは「宗教・政治活動」(28.7%)の割合が高く「地域行事、まちづくり活動」(13.0%)、「自分の趣味や技能を生かした支援活動」(11.5%)が続く。

韓国ではボランティアへの参加率は全体的に低い、その中でも「宗教活動・政治活動」(10.5%)の割合が高い。

ドイツでは「宗教活動・政治活動」(10.8%)、「自分の趣味や技能を生かした支援活動」(10.5%)があげられている。

フランスの場合、とくに目立つ項目というのは見られないが、「宗教活動・政治活動」(6.4%)や「地域行事、まちづくり」は相対的に高い割合を示している。

ちなみに、図表5-7において、各国毎に1位から3位までのものについてその順位を付しておいた。

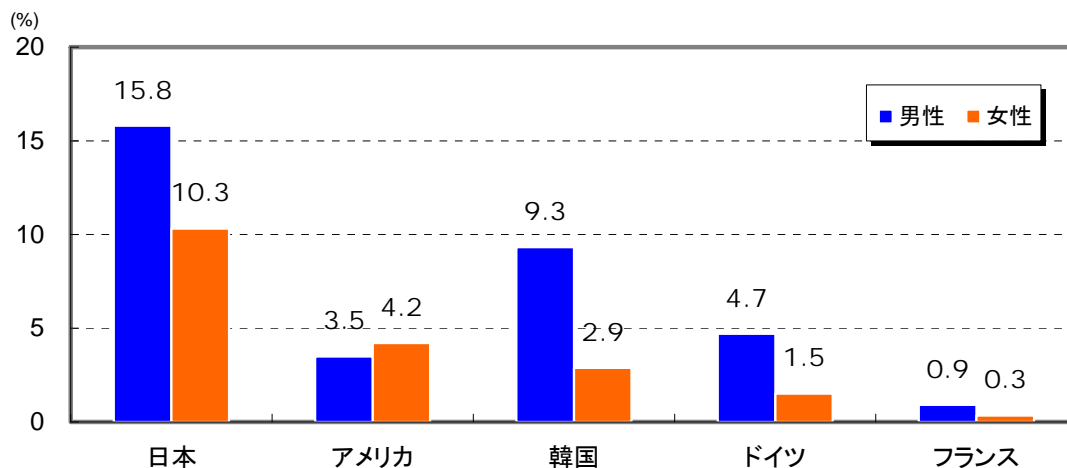
図表5-7 ボランティア活動参加状況 (％)

	日本	アメリカ	韓国	ドイツ	フランス
近隣の公園や通りなどの清掃等の美化活動	①12.8	3.9	②5.6	2.8	0.6
地域行事、まちづくり活動	①12.8	②13	1.9	4.3	②4.2
環境保全・自然保護活動	3.9	5.1	2.8	③5.9	2.4
交通安全や防犯・防災に関する活動	4.3	1.8	1.0	1.0	0.1
子供や青少年の健全育成に関する活動	3.0	5.7	0.5	2.2	1.9
趣味やスポーツ、学習活動などの指導	③5.8	7.3	2.6	4.8	③4.0
高齢者や障害者の話し相手や身の回りの世話	4.4	5.9	③4.0	4.4	③4.0
医療機関や福祉施設等での手伝い・支援活動	2.4	3.7	1.6	1.8	1.3
国際交流・国際支援活動	1.1	1.1	0.0	1.5	1.8
消費者活動	0.5	1.2	0.0	0.9	1.1
宗教・政治活動	2.7	①28.7	①10.5	①10.8	①6.4
自分の趣味や技能などを活かした支援活動	5.7	③11.5	1.1	②10.5	3.3
その他	2.4	2.6	1.2	4.5	0.4
以前には参加していたが、今は参加していない	15.9	21.5	7.0	20.8	13.4
全く参加したことがない	53.4	32.3	72.5	46.2	66.3

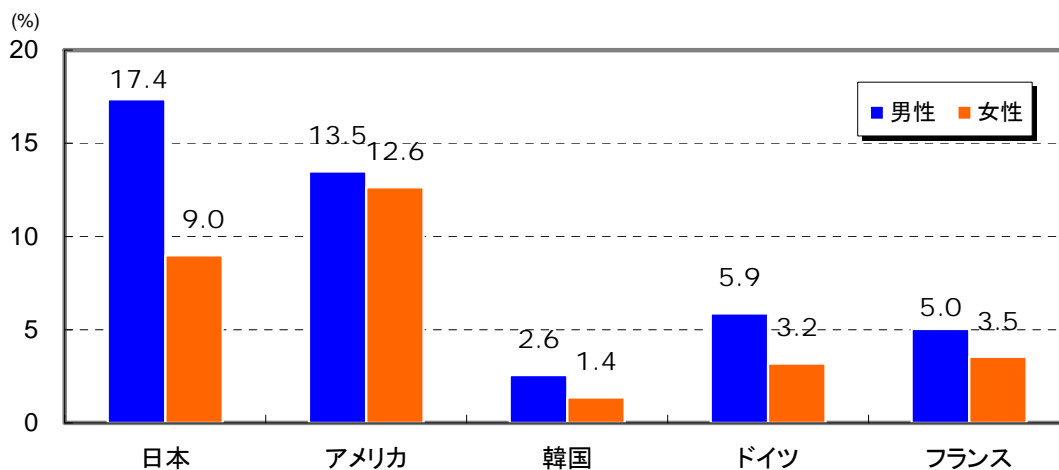
次に、これらの活動における男女の違いを見たのが、図表 5-8-1 から図表 5-8-6 である。

この点については、アメリカと他の 4 カ国との間で違いが見られる。アメリカの場合、「趣味・スポーツ・学習活動の指導」を除き、女性の参加割合が総じてかなり高い。これに対して、他の 4 カ国の場合、「障害者・高齢者の話し相手、身の回りの世話」「宗教・政治活動」を除いて、男性の参加割合が全般的に高い。特に日本と韓国については、男性の占める割合が総じてかなり高い。

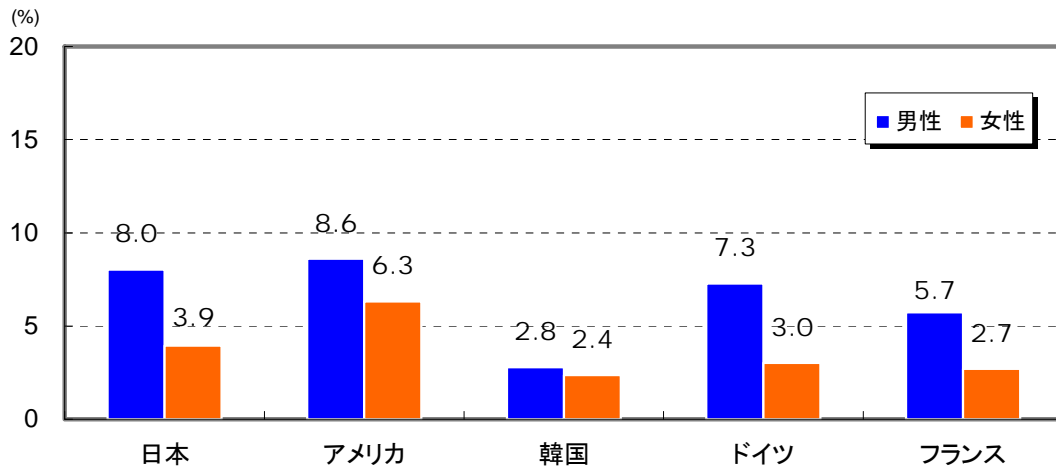
図表 5-8-1 Q46-1 公園・清掃美化活動



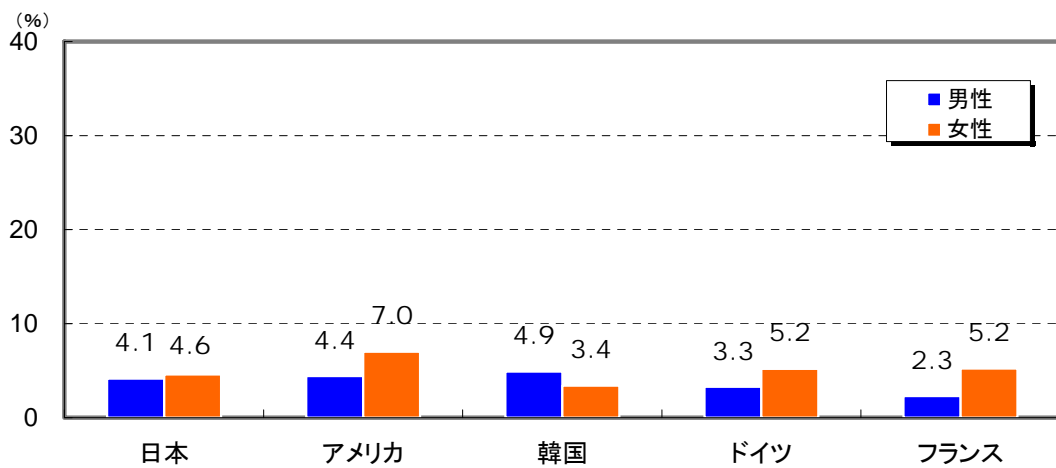
図表 5-8-2 Q46-2 地域行事



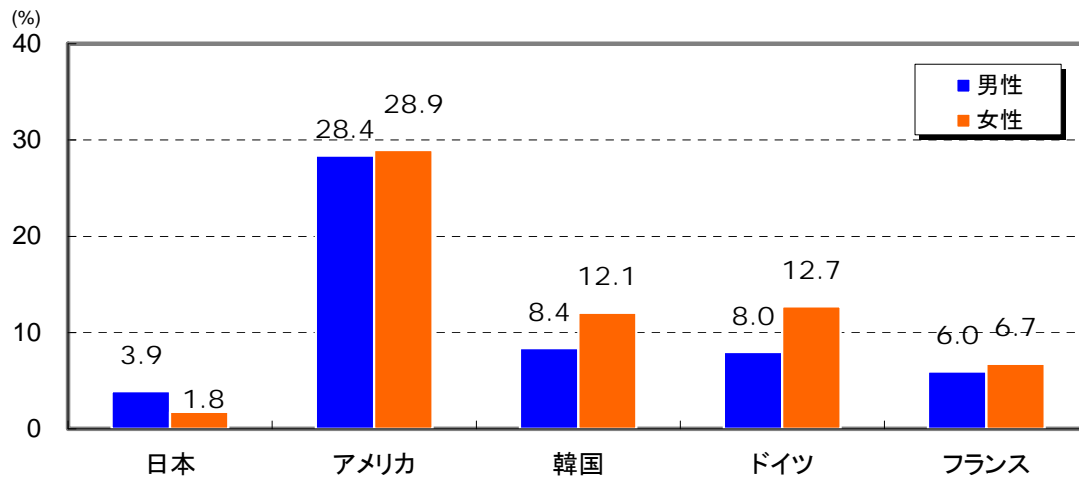
図表 5-8-3 Q46- 3 趣味・スポーツ・学習活動の指導



図表 5-8-4 Q46-4 障害者・高齢者の話し相手, 身の回りの世話

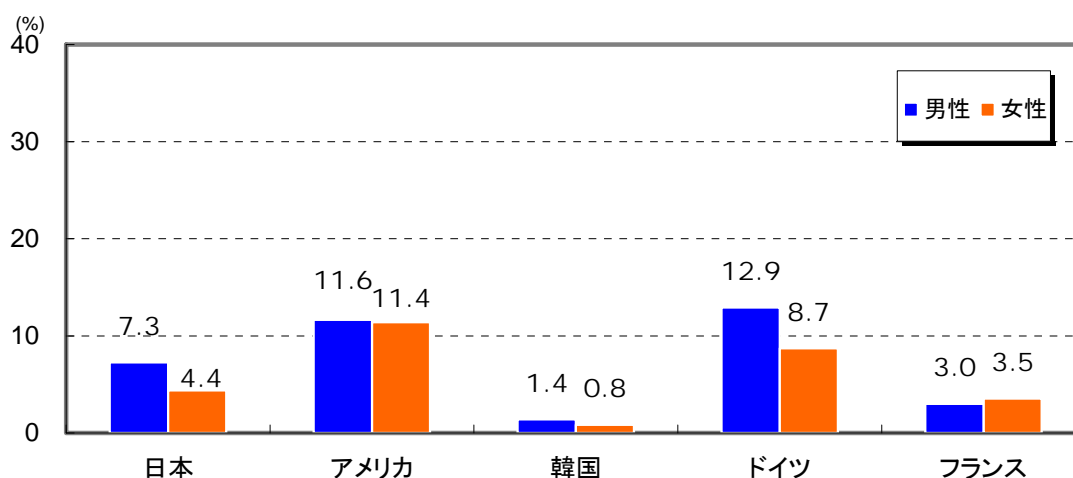


図表 5-8-5 Q46-5 宗教・政治活動





図表 5-8-6 Q46-6 趣味や技能を活かした支援活動



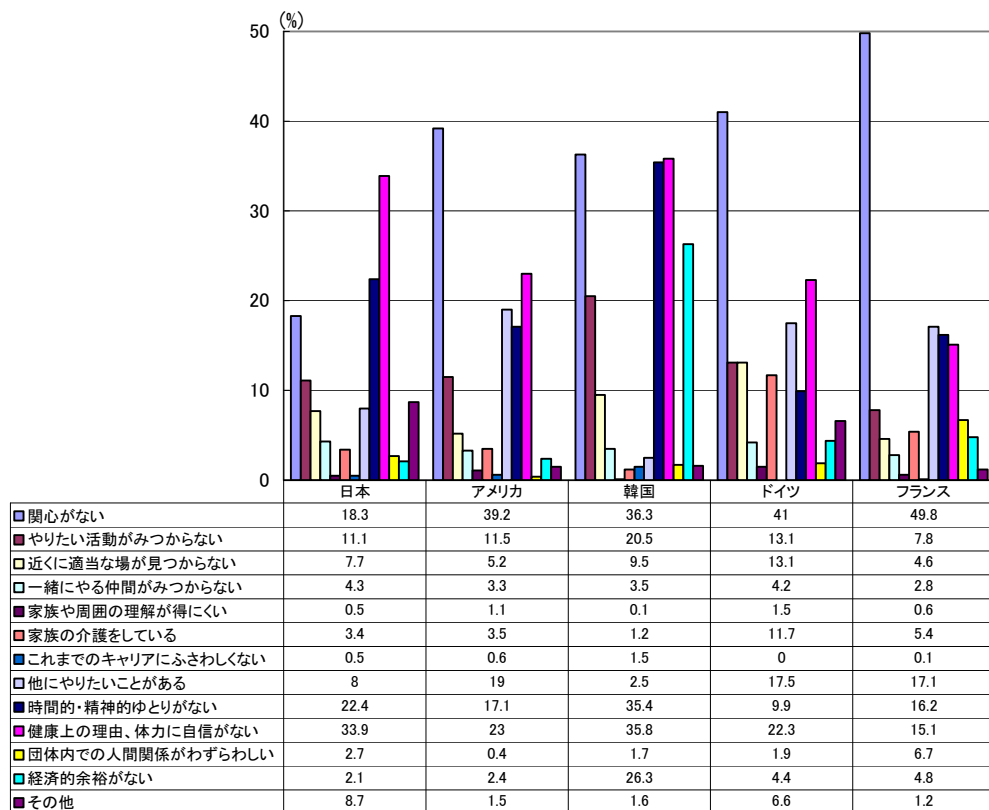
(2) ボランティア活動に参加しない理由 (Q47)

図表 5-9 は、ボランティア活動に参加したことのない人、以前は参加していたが現在は参加していない人に対して参加しない理由を聞いた結果を示したものである。日本以外の4カ国は、「関心がない」の割合がいずれも高いのに対して、フランス (49.8%)、ドイツ (41.0%)、アメリカ (39.2%)、韓国 (36.3%)、日本は 18.3%と少ない。この点については、これらの数字が、ボランティア活動に参加していない人を対象にしたものであることを踏まえて見ておく必要がある。つまりアメリカなどでは、ボランティア活動をすることが生活の中でふつうのこととして位置づけられているため、ボランティア活動に関心があれば、それがすぐに実際の行動へと結びつき、そのため関心があっても参加していないという人がもともと少ない——その結果として参加しない人の中で「関心がない」を理由とする人の割合が多くなる——というようにも考えることができるからである。

その他全般的には、「健康上の理由、体力に自信がない」(15.1%~35.8%)「時間的・精神的ゆゆうがない」(9.9%~35.4%)の割合が各国ともに高い。さらには、「やりたい活動が見つからない」も(7.8%~20.5%)比較的高い。

日本では「やりたい活動が見つからない」(11.1%)が高く、他方、アメリカ、ドイツ、フランスの3カ国は、「他にやりたいことがある」が高いといった傾向も見られる。韓国については、「経済的な余裕がない」(26.3%)が相対的に高い割合を示していることが注目される。

図表5-9 ボランティア活動不参加理由



## 2 学習活動

### (1) 学習活動への参加状況 (Q48)

「現在、学習活動に参加しているか」についてみると、前回と同様に、各国とも「参加していない」が7割以上と高い。特に「参加していない」割合が最も高いのは、韓国で87.4%、次いでフランス(86.2%)、ドイツ(80.4%)、日本(78.6%)、アメリカ(76.0%)となっている。ただしそうした中でも、前回と比較可能な4カ国のうち日本、韓国、ドイツでは「参加していない」の割合が減少してきている。(図表5-10)

図表5-11は、参加している場合の活動について、その割合をグラフで示したものである。全体的にいうと、「カルチャーセンターなどの民間団体が行う学習活動」の割合が各国ともに高くなっている(日本10.6%、アメリカ9.7%、ドイツ9.1%、フランス5.4%がそれぞれ1番目、韓国が4.0%で2番目)。これに、「公的機関が高齢者専用で設けている高齢者学級など」、「公的機関や大学などが開催する公開講座など」の2つを加えた3つの活動が、各国ともに主要な学習活動の類型となっている。

国別に見ると、日本の場合、「カルチャーセンターなどの民間団体が行う学習活動」が、前回に比べてほぼ倍増しているのが特徴的である。またアメリカで学習活動への参加率が高い理由としては、「公的機関や大学などが開催する公開講座」に参加する割合が他国に比較して相対的に高いことが挙げられる。なお韓国も、アメリカの割合には及ばないものの、「公的機関が高齢者専用で設けている高齢者学級など」が一番大きい割合を占めている。また韓国の場合、

「カルチャーセンターなど」の割合は、他の4カ国と比較すると一番低位の水準にあるが、前回に比較するとほぼ倍増しており、今後は他の4カ国と同様、この種の学習活動のウェイトが増していくものと思われる。ドイツの場合も、日本と同じように、「カルチャーセンターなど」の割合の増加率が高い。ただし増加率ということだけで言うならば、「公的機関が高齢者専用に設けている高齢者学級など」の伸び方がかなり高いのが特徴的である。最後にフランスの場合で特徴的なのは、「カルチャーセンターなど」、「高齢者学級など」、「公開講座など」の主要な3つの活動が、おおよそ同じ割合を示しているということである。

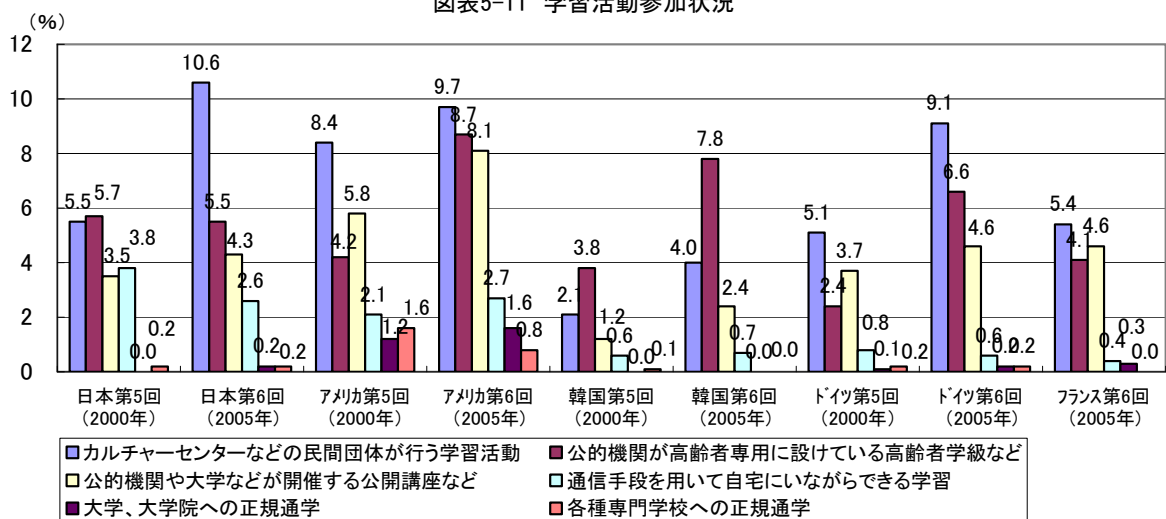
全体的な動向を見ると、学習活動への参加については、緩やかではあるかもしれないが、今後とも高まっていくものと思われる。

図表5-10 学習活動参加状況

	日本		アメリカ		韓国		ドイツ		フランス
	第5回 (2000年)	第6回 (2005年)	第5回 (2000年)	第6回 (2005年)	第5回 (2000年)	第6回 (2005年)	第5回 (2000年)	第6回 (2005年)	第6回 (2005年)
カルチャーセンターなどの民間団体が行う学習活動	5.5	10.6	8.4	9.7	2.1	4.0	5.1	9.1	5.4
公的機関が高齢者専用に設けている高齢者学級など	5.7	5.5	4.2	8.7	3.8	7.8	2.4	6.6	4.1
公的機関や大学などが開催する公開講座など	3.5	4.3	5.8	8.1	1.2	2.4	3.7	4.6	4.6
通信手段を用いて自宅にいながらできる学習	3.8	2.6	2.1	2.7	0.6	0.7	0.8	0.6	0.4
大学、大学院への正規通学	0.0	0.2	1.2	1.6	0.0	0.0	0.1	0.2	0.3
各種専門学校への正規通学	0.2	0.2	1.6	0.8	0.1	0.0	0.2	0.2	0.0
その他	1.6	2.7	1.5	1.5	0.7	1.8	2.1	3.7	0.4
参加していない	83.8	78.6	73.5	76.0	92.9	87.4	87.1	80.4	86.2

	日本		アメリカ		韓国		ドイツ		フランス
	日本第5回 (2000年)	日本第6回 (2005年)	アメリカ第5回 (2000年)	アメリカ第6回 (2005年)	韓国第5回 (2000年)	韓国第6回 (2005年)	ドイツ第5回 (2000年)	ドイツ第6回 (2005年)	フランス第6回 (2005年)
カルチャーセンターなどの民間団体が行う学習活動	5.5	10.6	8.4	9.7	2.1	4.0	5.1	9.1	5.4
公的機関が高齢者専用に設けている高齢者学級など	5.7	5.5	4.2	8.7	3.8	7.8	2.4	6.6	4.1
公的機関や大学などが開催する公開講座など	3.5	4.3	5.8	8.1	1.2	2.4	3.7	4.6	4.6
通信手段を用いて自宅にいながらできる学習	3.8	2.6	2.1	2.7	0.6	0.7	0.8	0.6	0.4
大学、大学院への正規通学	0.0	0.2	1.2	1.6	0.0	0.0	0.1	0.2	0.3
各種専門学校への正規通学	0.2	0.2	1.6	0.8	0.1	0.0	0.2	0.2	0.0
その他	1.6	2.7	1.5	1.5	0.7	1.8	2.1	3.7	0.4
参加していない	83.8	78.6	73.5	76.0	92.9	87.4	87.1	80.4	86.2

図表5-11 学習活動参加状況



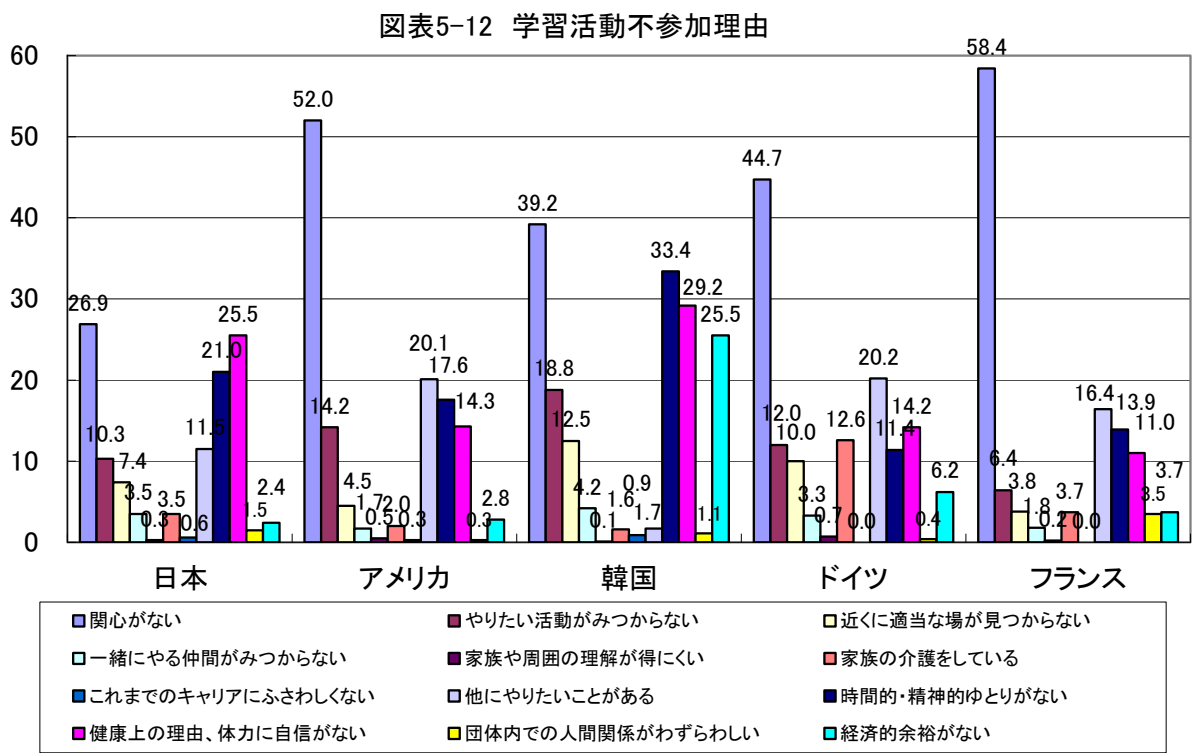
(2) 学習活動に参加しない理由 (Q49)

学習活動に参加しない人に非参加理由を聞いたところ日本以外の国々は「関心がない」が際立って高かった。(フランス 58.4%, アメリカ 52.0%, ドイツ 44.7%, 韓国 39.2%)

日本は、「関心がない」26.9%, 「健康上の理由」25.5%, 「時間的・精神的ゆとりがない」21.0%と3者がほぼ拮抗している。日本において、「関心がない」の割合が他の国に比べて低いのは、ボランティア活動に参加しない理由を尋ねたときの同じである。この点、日本の特徴と考えると良いであろう。

アメリカ、ドイツ、フランスは「他にやりたいことがある」(アメリカ 20.1%, ドイツ 20.2% フランス 16.4%)という割合が高い。具体的にどういうことをやりたいと考えているのか、またそれを実際に行っているかどうかによっても異なるので一概には言えないが、高齢者の社会参加ということとの関係から言えば、他の項目と異なり肯定的な要素も含んだ回答と見ることもできよう。

最後に韓国の場合、「時間的・精神的ゆとりがない」33.4%, 「健康上の理由、体力に自信がない」29.2%, 「経済的余裕がない」25.5%などが高い。



図表5-13 学習活動不参加理由

(%)

	日本	アメリカ	韓国	ドイツ	フランス
関心がない	26.9	52.0	39.2	44.7	58.4
やりたい活動が見つからない	10.3	14.2	18.8	12.0	6.4
近くに適当な場が見つからない	7.4	4.5	12.5	10.0	3.8
一緒にやる仲間が見つからない	3.5	1.7	4.2	3.3	1.8
家族や周囲の理解が得にくい	0.3	0.5	0.1	0.7	0.2
家族の介護をしている	3.5	2.0	1.6	12.6	3.7
これまでのキャリアにふさわしくない	0.6	0.3	0.9	0.0	0.0
他にやりたいことがある	11.5	20.1	1.7	20.2	16.4
時間的・精神的ゆとりがない	21.0	17.6	33.4	11.4	13.9
健康上の理由、体力に自信がない	25.5	14.3	29.2	14.2	11.0
団体内での人間関係がわずらわしい	1.5	0.3	1.1	0.4	3.5
経済的余裕がない	2.4	2.8	25.5	6.2	3.7
その他	6.8	1.6	1.5	5.5	0.8

### Ⅲ 情報機器の利用

#### 1 情報機器の利用状況 (Q50)

図表 5-14 は「情報機器を使って、家族や友人と連絡をとったり、情報を探したりしているか」という問いに対する結果を示したものである。また、図表 5-15 は、前回と今回の調査結果についてグラフを使って比較したものである。これらによると、今回、日本は 64.7% が未使用と答えており、5 カ国の中で最も高い。次いで、ドイツ(55.0%)、フランス(48.7%) 韓国(45.2%)、アメリカ(43.6%) の未使用率となっている。

前回調査と比較すると、各国ともに全般的に情報機器を使用しない割合は減少していることが分かる。とくに、前は「使わない」の割合が一番低いアメリカでさえ、65%を超えていて、他の国はいずれも 75%から 80%弱の割合を示していたのが、今回は、一番「使わない」の割合が高い日本さえ、前回のアメリカの割合を下回っており、また「使わない」を選択した者が半分以上の国が調査対象国の半数以上を占めるにいたっている(アメリカ、韓国、そして今回はじめての調査だがフランス)。とくに、韓国の変化が著しい。これは、ここ何年かの、韓国における社会経済的变化を反映したものと言えよう。

具体的な利用状況をみると、日本では「携帯電話やPHSで家族・友人などと連絡をとる」(28.0%)、「ファックスで家族・友人などと連絡をとる」(11.6%)があげられている。また「コンピュータの電子メールで家族・友人などと連絡をとる」(8.3%)「インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする」(7.5%)など PC を使用した通信の割合の増加傾向もみられている。アメリカは 5 カ国の中で際立って「コンピュータの電子メールで家族・友人などと連絡をとる」(32.4%)が高い。韓国では、「携帯電話やPHSで家族・友人などと連絡をとる」が前回調査と比べて非常に伸びている(18.0%から 52.7%)。韓国における情報機器の利用率を押し上げることになった主要要因である。ドイツの場合、各項目にわたって利用率が全般的にあがってきている。フランスは、「携帯電話やPHSで家族・友人などと連絡をとる」が 45.4%と、アメリカや韓国に近い数字をあげている。

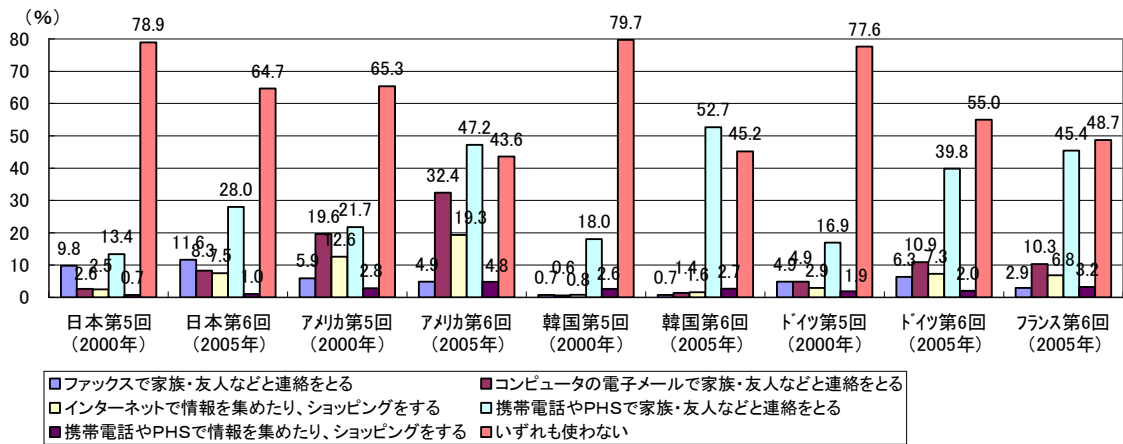
図表5-14 情報機器利用状況

	日本		アメリカ		韓国		ドイツ		フランス
	第5回 (2000年)	第6回 (2005年)	第5回 (2000年)	第6回 (2005年)	第5回 (2000年)	第6回 (2005年)	第5回 (2000年)	第6回 (2005年)	第6回 (2005年)
ファックスで家族・友人などと連絡をとる	9.8	11.6	5.9	4.9	0.7	0.7	4.9	6.3	2.9
コンピュータの電子メールで家族・友人などと連絡をとる	2.6	8.3	19.6	32.4	0.6	1.4	4.9	10.9	10.3
インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする	2.5	7.5	12.6	19.3	0.8	1.6	2.9	7.3	6.8
携帯電話やPHSで家族・友人などと連絡をとる	13.4	28.0	21.7	47.2	18.0	52.7	16.9	39.8	45.4
携帯電話やPHSで情報を集めたり、ショッピングをする	0.7	1.0	2.8	4.8	2.6	2.7	1.9	2.0	3.2
いずれも使わない	78.9	64.7	65.3	43.6	79.7	45.2	77.6	55.0	48.7

#### 2 情報機器を利用しない理由 (Q51)

図表 5-16 および図表 5-17 は、上記の質問で情報機器を利用しないと答えた者に対して、その理由を聞いた結果である。これによると、各国とも「必要性を感じないから」の割合が最も高く、8割前後となっている。ただし、韓国だけは、前回調査に比べて 10%以上数字を減らしている。

図表5-15 情報機器利用状況



その他の理由としては、いずれの国も「使い方が分からないので、面倒」、「お金がかかるから」をあげる者がおおむね多い。ただし日本の場合、前回調査では、「お金がかかるから」が13.7%であったが、今回調査では4.0%と10%近く減らしている。アメリカも日本と同様に、前回調査から「お金がかかるから」の比率をかなり減らしている。他方、韓国では「お金がかかるから」が42.8%とかなりの比重を占めている。しかもこの数字は、前回調査よりも若干だが増えている。ドイツでは、「お金がかかるから」が前回同様に20%以上出ており、日本とアメリカがこの項目について減少傾向が見られるのと違った動向を示している。本質問について、今回初めての調査となったフランスは、おおよそドイツと近似した調査結果となっている。

図表5-16 情報機器を利用しない理由

	日本		アメリカ		韓国		ドイツ		フランス
	第5回 (2000年)	第6回 (2005年)	第5回 (2000年)	第6回 (2005年)	第5回 (2000年)	第6回 (2005年)	第5回 (2000年)	第6回 (2005年)	第6回 (2005年)
必要性を感じないから	78.0	81.3	85.9	85.3	78.3	66.7	79.3	84.5	81.3
使い方が分からないので、面倒	35.7	28.4	17.6	12.6	24.7	20.4	21.4	27.7	25.9
興味はあるが購入場所、購入方法などがわからない	1.1	0.7	1.1	0.0	6.2	1.7	0.7	0.0	0.2
使い方を覚えたいが、教えてくれる人がいない	5.0	1.7	2.8	2.5	5.4	4.8	3.0	2.8	3.6
お金がかかるから	13.7	4.0	18.2	11.0	39.8	42.8	21.7	21.8	15.1
文字が見にくいから	8.6	4.0	2.8	2.8	8.7	9.6	4.3	7.6	5.4
その他	3.1	5.0	2.8	0.5	1.2	4.8	7.1	9.9	0.2

図表5-17 情報機器を利用しない理由

